

流行語が広がる場所とその変遷

名前 田村雅史 学生番号 23B40906
東京工業大学生命理工学院

1. はじめに

流行語には知らない言葉も多くある...
どこで誰が流行させてるのだろう？

〈Research Question〉

・流行語を拡げる媒体はテレビからX(旧Twitter)
に変化したのか

2. 方法

① 流行語の情報源はどこかデータをとる

このデータを基にして

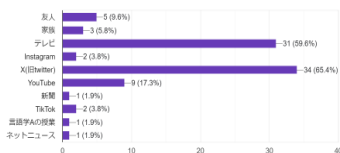
- ② 毎年の流行語の情報源の変化を調べる
- ③ その変化の原因・特徴を考察する

3. 結果

Google formsを用いて様々なSNSに流したり、知り合いに広めてもらうことでデータを集めた。

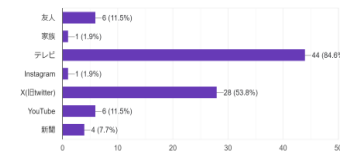
〈集計結果〉

2023年の流行語の情報源
52件の回答



グラフ1:2023の流行語の情報源

2019年の流行語の情報源
52件の回答



グラフ2:2019の流行語の情報源

流行語の情報源は

2019年・・・テレビ44票

X(旧Twitter)28票

2023年・・・テレビ31票

X(旧Twitter)34票

同票程度に変化

他には

- ・Twitter以外のSNSへの票も増加している
- ・TikTokやネットニュースなどの新しい情報源も生まれている
- ・流行語ごとの情報源の違いはあまりみられなかった

4. 考察

データを収集した結果実際にXを含めたSNSから情報を仕入れることが増えたと分かる

〈SNSが情報源となるが多くなった原因〉

・ユーザー数の増加

2019年・・・約3億1270万人→2023年・・・約3億3300万人

・テレビよりもスマホといういつでも閲覧可能なデバイスの登場

・SNS内で流行して流行語大賞にノミネートされる言葉も出てきた

〈流行語の種類〉

太田彩英「新語・流行語の定着の法則性について」(2020)では新語・流行語を以下のように分けている。

・大衆文化的要素の強いジャンル
(スポーツ、お笑いなど)

・社会問題的要素の強いジャンル
(政治、戦争、環境問題など)

・その他

この論文によると大衆文化的なものは死語になりやすく、社会問題的なものは定着しやすいようだ。

2023年の流行語を分けてみると

・大衆文化的・・・「アレ」、「首振りダンス」、「ペッパームル・パフォーマンス」、「観る将」、「四年ぶりの声出し応援」

・社会問題的・・・「OSO18」、「地球沸騰化」、「闇バイト」

・その他・・・「蛙化現象」、「生成AI」

この中でSNS流行語大賞にノミネートされたものは「アレ」、「首振りダンス」、「蛙化現象」であり社会問題的な新語・流行語はあまりSNSで流行することはないようである。

5. おわりに

調査の結果、流行語が認知される場というのがテレビから様々なSNSに変化しつつあるということが分かった。しかしその流行語の中でも定着しやすい社会問題的要素の強い言葉はSNSではなくテレビから発信されることが多いと分かった。

SNSにおける流行語は一過性のものであるようだ。

ただし、今回の調査は母数が少なく、多様性もなかったため偏っている可能性がある。また、流行語ごとの情報源を特定できる調査ではなかったため相関を見ることができなかった。ゆくゆくは年代ごとの流行語の認知の差も調べていきたい。

文献:

太田 彩英. 新語・流行語の定着の法則性について. 山口国文 / 山口大学人文学部 国語国文学会 編. (43):2020.3,p.168-148.